

# 宮崎県感染症週報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

## 宮崎県第8週の発生動向

### 全数報告の感染症 (8週までに新たに届出のあったもの)

1類感染症：報告なし。2類感染症：結核9例。3類感染症：報告なし。4類感染症：報告なし。  
5類感染症：劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例、梅毒1例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型	症状等
2類	結核	宮崎市	40歳代	女	肺結核	咳、痰、発熱
			50歳代	男	肺結核	咳
			50歳代	女	無症状病原体保有者	—
			70歳代	男	無症状病原体保有者	—
			70歳代	男	無症状病原体保有者	—
			70歳代	男	無症状病原体保有者	—
			80歳代	女	無症状病原体保有者	—
			80歳代	女	肺結核	咳
		日向	70歳代	男	疑似症患者	咳、痰、発熱
5類	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	宮崎市	70歳代	女	—	ショック、腎不全、DIC、中枢神経症状 血清群:A群
	梅毒	高千穂	20歳代	男	早期頭症梅毒Ⅱ期	扁平コンジローマ

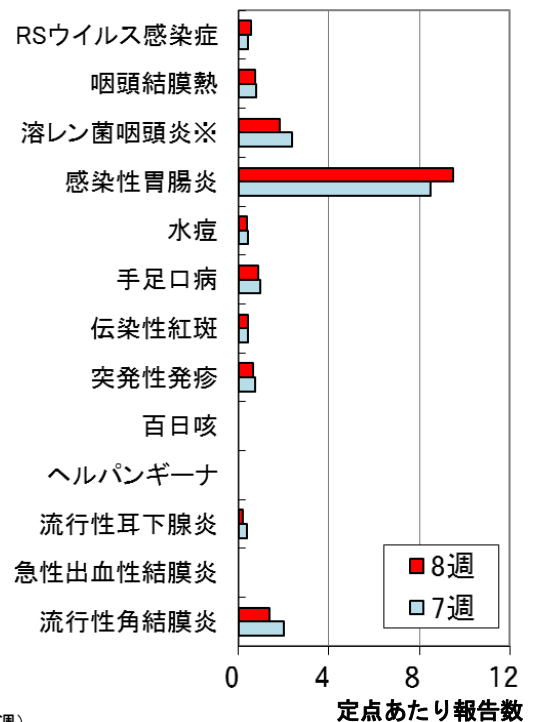
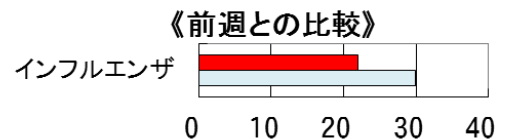
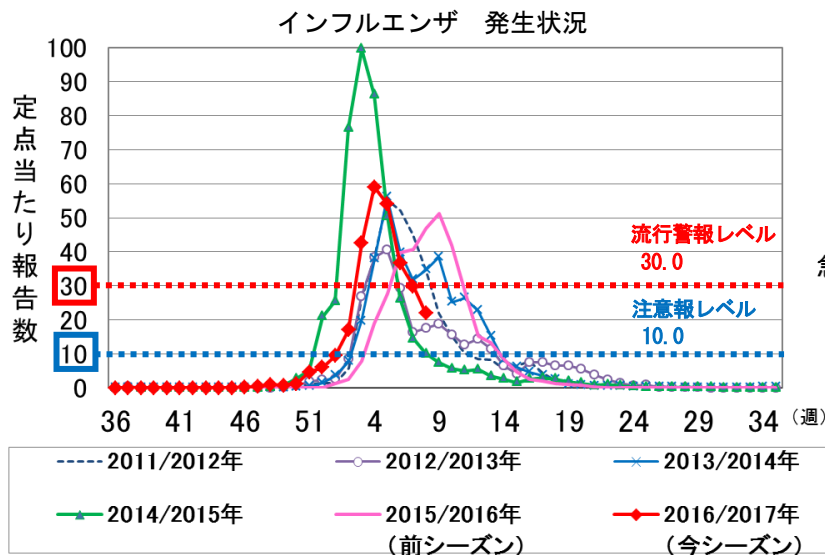
### 定点把握の対象となる5類感染症

・定点医療機関からの報告総数は1,849人(定点当たり38.8)で、前週比82%と減少した。前週に比べ増加した主な疾患はRSウイルス感染症と感染性胃腸炎で、減少した主な疾患はインフルエンザとA群溶血性レンサ球菌咽頭炎であった。

#### ★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

##### 【インフルエンザ】

報告数は1,293人(21.9)で、前週比73%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値\*(28.6)の約0.8倍であった。中央(33.5)、日南(30.6)、都城(27.6)保健所からの報告が多く、年齢別は5~9歳が全体の約3割を占めた。



※ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

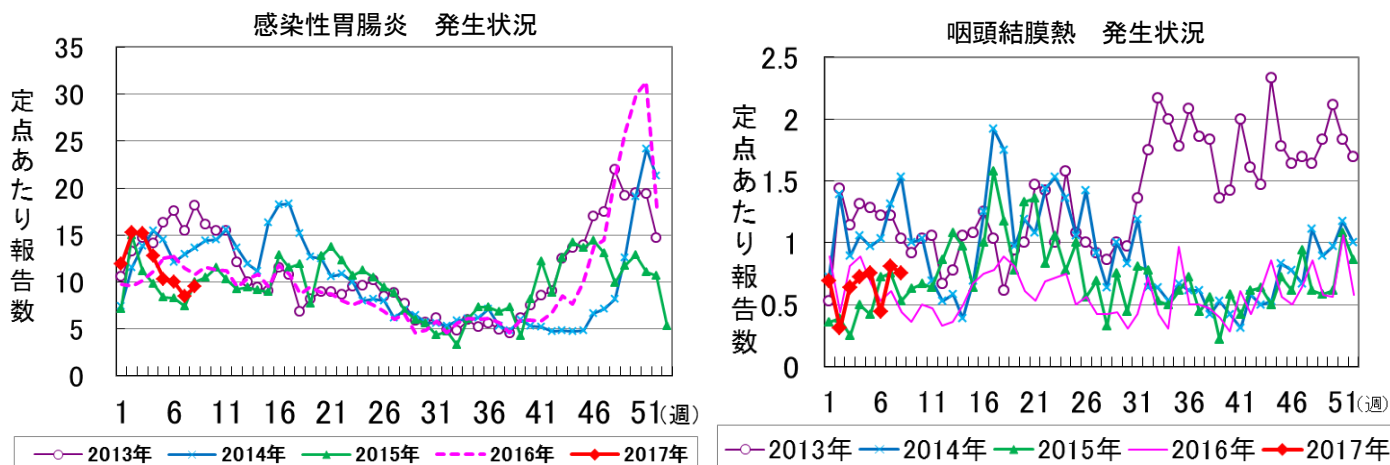
【感染性胃腸炎】

報告数は342人(9.5)で、前週比112%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値\*(12.0)の約0.8倍であった。日南(19.0)、小林(15.7)、都城(13.2)保健所からの報告が多く、年齢別は1~4歳が全体の約4割を占めた。

【咽頭結膜熱】

報告数は27人(0.75)で、前週比93%と減少した。例年同時期の定点あたり平均値\*(0.82)の約0.9倍であった。日南(3.3)、高鍋(1.0)、都城(0.83)保健所からの報告が多く、年齢別は1歳が全体の約3割を占めた。

\* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均値



★基幹定点からの報告★

- マイコプラズマ肺炎：日向保健所から1例報告があった。5~9歳であった。
- 感染性胃腸炎(ロタウイルス)：延岡保健所から1例報告があった。0~4歳で、病原体の群別は不明であった。

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値超過疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市	インフルエンザ(20.6)
都城	インフルエンザ(27.6)
延岡	インフルエンザ(26.1)
日南	インフルエンザ(30.6)、咽頭結膜熱(3.3)
小林	インフルエンザ(16.8)
高鍋	インフルエンザ(14.5)
高千穂	インフルエンザ(14.5)
日向	インフルエンザ(14.0)
中央	インフルエンザ(33.5)

\* 流行警報レベル開始基準値 \*

- ・インフルエンザ(30.0)
- ・咽頭結膜熱(3.0)

\* 流行注意報レベル基準値 \*

- ・インフルエンザ(10.0)

□病原体検出情報 (衛生環境研究所微生物部 平成29年2月27日までに検出)

★細菌

同定細菌名	年齢	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	10歳代	男	2017.02.09	上気道炎、慢性咳嗽	鼻咽頭ぬぐい液	2017.02.15
<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	40歳代	女	2017.02.15	上気道炎(咽頭炎)、下気道炎(気管支炎)	鼻咽頭ぬぐい液	2017.02.17
<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	10歳代	女	2017.02.15	上気道炎(咽頭炎)	鼻咽頭ぬぐい液	2017.02.17

○3ヶ月ぶりに百日咳菌 (*Bordetella pertussis*) が分離された。百日咳菌の検出に関しては、平成28年11月より、LAMP法を用いた遺伝子検査が保険収載され、民間の検査機関による受託検査が可能となっている。今後、LAMP法などの遺伝子検査の普及が進めば、成人の百日咳など典型的な症状を示さない場合にも診断が可能となり、百日咳のより正確な発生動向が把握できると考えられる。

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取日	臨床症状	材料	検出日
コクサッキーウイルスA5型	0～4歳	男	2016.12.16	冬のヘルパンギーナ疑い、38.7℃	咽頭ぬぐい液	2017.02.23
コクサッキーウイルスA16型 ノロウイルスGⅡ(再掲)	0～4歳	男	2016.12.10	感染性胃腸炎、胃腸炎(下痢)	便	2017.02.23
コクサッキーウイルスA16型	5～9歳	女	2016.10.31	手足口病、39.4℃、口内炎、発疹	咽頭ぬぐい液	2017.02.23
アデノウイルス5型 コクサッキーウイルスA16型(再掲)	0～4歳	男	2016.09.23	ヘルペス口内炎、発熱、口内炎	咽頭ぬぐい液	2017.02.17
単純ヘルペスウイルス1型	0～4歳	男	2017.01.27	HSV感染の疑い、39.2℃、口内炎(歯肉炎)、紅丘疹	咽頭ぬぐい液	2017.02.27
インフルエンザウイルスAH3	5～9歳	男	2016.12.12	インフルエンザA型、39.6℃、上気道炎(咽頭痛)	咽頭ぬぐい液	2017.02.14
インフルエンザウイルスAH3	50歳代	男	2017.01.11	インフルエンザ、38.6℃、咽頭炎、咽頭痛	鼻腔ぬぐい液	2017.02.14
インフルエンザウイルスAH3	0～4歳	女	2017.01.18	インフルエンザA型、38.5℃、頭痛、胃腸炎(腹痛)	鼻汁	2017.02.17
インフルエンザウイルスAH3	10歳代	男	2017.01.19	インフルエンザA型、38.5℃、上気道炎	鼻汁	2017.02.17
インフルエンザウイルスAH3	5～9歳	男	2017.01.19	インフルエンザA型、38℃、頭痛、上気道炎	鼻汁	2017.02.17
インフルエンザウイルスAH3	10歳代	男	2017.01.10	インフルエンザA型、37.0℃、頭痛、気管支炎	咽頭ぬぐい液	2017.02.14
インフルエンザウイルスAH3	10歳代	男	2017.01.06	インフルエンザA型、39.8℃、頭痛、関節痛、嘔気、嘔吐	咽頭ぬぐい液	2017.02.14
インフルエンザウイルスAH3	0～4歳	男	2017.01.11	インフルエンザA型、39.0℃、上気道炎(咽頭炎)、 下気道炎(気管支炎)	鼻汁	2017.02.14
インフルエンザウイルスAH3	20歳代	男	2017.01.12	インフルエンザA型、39.3℃、関節痛、 下気道炎(気管支炎)	鼻汁	2017.02.14
インフルエンザウイルスB型 (ビクトリア系統)	10歳代	男	2017.01.23	インフルエンザB型、39.2℃	咽頭ぬぐい液	2017.02.17
パラインフルエンザウイルス1型	0～4歳	男	2017.01.11	急性咽頭炎、39.5℃、上気道炎(咽頭炎)	鼻咽頭ぬぐい液	2017.02.22

○インフルエンザと診断された10名のうち、9名からインフルエンザウイルスAH3が、1名からインフルエンザウイルスB型(ビクトリア系統)が検出された。県内では依然としてインフルエンザの流行が続いているため、引き続き、手洗い・うがいなどの予防策をとることが重要である。  
○幼児1名からアデノウイルス5型が分離された。乳幼児の急性気道感染症の約10%は、アデノウイルスが原因とされている。また、生後14日以内の新生児に感染した場合は全身感染を起こしやすく、重症化する場合があるため注意が必要である。

✚ 全国 2017 年第 7 週の発生動向

□ 全数報告の感染症 (全国第 7 週)

1類感染症	報告なし				
2類感染症	結核	294 例			
3類感染症	細菌性赤痢	2 例	腸管出血性大腸菌感染症	8 例	
4類感染症	E型肝炎	5 例	A型肝炎	4 例	つつが虫病 2 例
	デング熱	2 例	レジオネラ症	16 例	
5類感染症	アメーバ赤痢	19 例	ウイルス性肝炎	5 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症 13 例
	急性脳炎	14 例	クロイツフェルト・ヤコブ病	2 例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症 4 例
	後天性免疫不全症候群	4 例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	3 例	侵襲性肺炎球菌感染症 55 例
	水痘(入院例)	1 例	梅毒	74 例	播種性クリプトコックス症 5 例
	破傷風	1 例	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2 例	風しん 1 例
	麻しん	6 例	薬剤耐性アシネトバクター感染症	1 例	

麻しんの報告数は6例で前週比0.5倍と減少した。三重県(4例)、広島県(1例)、九州地方からの報告は福岡県(1例)であった。年齢別では30歳代が3例、20歳代が2例、50歳代が1例であった。

□ 定点把握の対象となる5類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比91%と減少した。前週と比較して増加した主な疾患は感染性胃腸炎と流行性耳下腺炎で、減少した主な疾患はインフルエンザとマイコプラズマ肺炎であった。

インフルエンザの報告数は118,696人(23.9)で前週比84%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値\*(26.8)の約0.9倍であった。鹿児島県(36.2)、石川県(35.8)、長崎県(35.2)からの報告が多く、年齢別では5～9歳が全体の約3割を占めた。

流行性耳下腺炎の報告数は2,037人(0.64)で前週比121%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値\*(0.39)の約1.6倍であった。山口県(2.6)、愛媛県(2.4)、新潟県、鹿児島県(2.1)からの報告が多く、年齢別では4～6歳が全体の約4割を占めた。 \* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均値

宮崎県 感染症情報

(71 定点医療機関)

2017年 第8週(2月20日～2月26日)

疾病名		第7週	第8週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	1761	1293	330	276	183	153	84	87	29	84	67
	定点あたり	29.85	21.92	20.63	27.60	26.14	30.60	16.80	14.50	14.50	14.00	33.50
RSウイルス 感染症	報告数	16	20	4	9	3	2	1	1			
	定点あたり	0.44	0.56	0.40	1.50	0.75	0.67	0.33	0.25	0.00	0.00	0.00
咽頭結膜熱	報告数	29	27	6	5	2	10		4			
	定点あたり	0.81	0.75	0.60	0.83	0.50	3.33	0.00	1.00	0.00	0.00	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	86	66	29	4	3	15	3	8		2	2
	定点あたり	2.39	1.83	2.90	0.67	0.75	5.00	1.00	2.00	0.00	0.50	2.00
感染性胃腸炎	報告数	306	342	50	79	34	57	47	30	7	36	2
	定点あたり	8.50	9.50	5.00	13.17	8.50	19.00	15.67	7.50	7.00	9.00	2.00
水痘	報告数	16	14	4	1	1		4	1		3	
	定点あたり	0.44	0.39	0.40	0.17	0.25	0.00	1.33	0.25	0.00	0.75	0.00
手足口病	報告数	35	32	10	11		1	7	2		1	
	定点あたり	0.97	0.89	1.00	1.83	0.00	0.33	2.33	0.50	0.00	0.25	0.00
伝染性紅斑	報告数	15	15	7		2	1				5	
	定点あたり	0.42	0.42	0.70	0.00	0.50	0.33	0.00	0.00	0.00	1.25	0.00
突発性発しん	報告数	26	24	6	4	8		1	3	1	1	
	定点あたり	0.72	0.67	0.60	0.67	2.00	0.00	0.33	0.75	1.00	0.25	0.00
百日咳	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	13	7	2	1	1			3			
	定点あたり	0.36	0.19	0.20	0.17	0.25	0.00	0.00	0.75	0.00	0.00	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	10	7	6	1							
	定点あたり	2.00	1.40	3.00	0.50	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ 肺炎	報告数	2	1								1	
	定点あたり	0.29	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		1.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数		1			1						
	定点あたり	0.00	0.14	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:5、基幹定点:7

上段:報告数  
下段:定点あたり報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2017年第1週～8週)

2類感染症	結核	46例(9)			
4類感染症	E型肝炎	1例	つつが虫病	5例	
5類感染症	急性脳炎	1例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1例(1)	侵襲性インフルエンザ菌感染症 1例
	侵襲性肺炎球菌感染症	7例	梅毒	3例(1)	

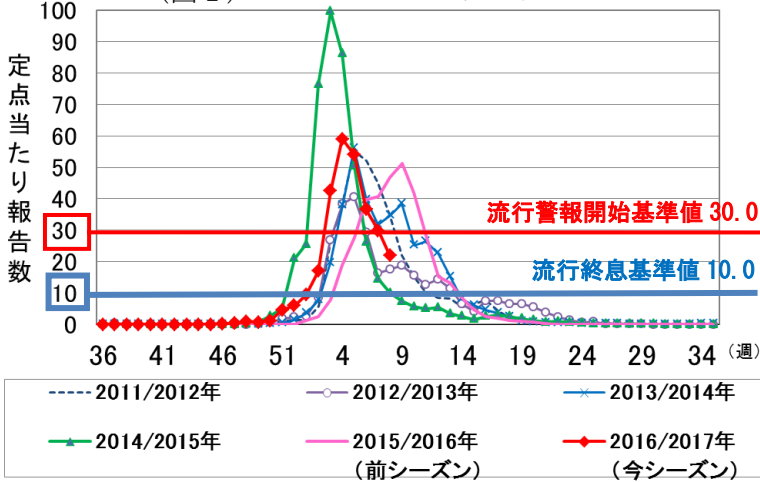
( )内は今週届出分、再掲

# インフルエンザ情報 《県内第8週、全国第7週（再掲）》

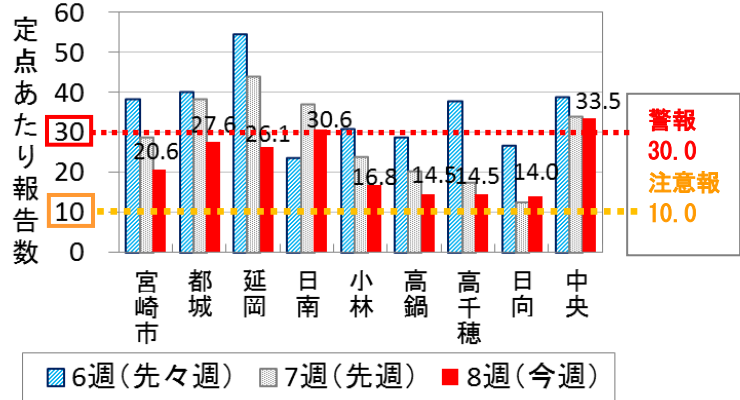
## □ 県内第8週インフルエンザ発生動向

2017年2月20日～2月26日までの1週間で1,293人（定点あたり21.9）の報告があった。前週の約0.7倍と減少し、例年同時期の定点あたり平均値\*（28.6）の約0.8倍であった（図1）。保健所別推移を図2に示す。年齢群別では5歳未満が全体の23%、5-9歳が29%、10-14歳が17%、15-19歳が4%、20-59歳が20%、60歳以上が7%を占めた。（図3）

（図1）インフルエンザ発生状況



（図2）インフルエンザ保健所別推移（3週分）

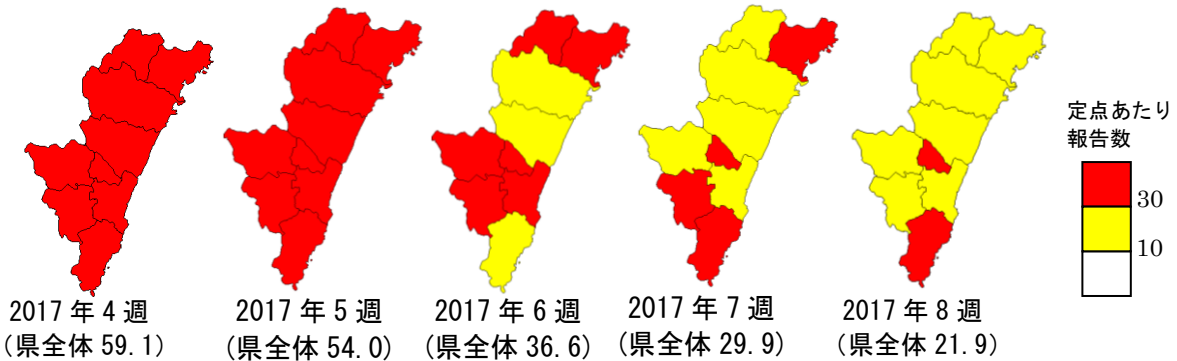


（図3）年齢群別割合の推移（2017年第4週～第8週）

週	人数	5歳未満	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～59歳	60歳以上
4週	3,486人	19%	31%	24%	8%	13%	5%
5週	3,187人	22%	28%	22%	6%	16%	6%
6週	2,162人	26%	29%	17%	5%	16%	7%
7週	1,761人	25%	27%	15%	5%	19%	9%
8週	1,293人	23%	29%	17%	4%	20%	7%

5歳未満  
  5～9歳  
  10～14歳  
  15～19歳  
  20～59歳  
  60歳以上

保健所別インフルエンザ流行レベルマップ 2017年第4週～第8週



## □ 全国第7週インフルエンザ発生動向

2017年2月13日～2月19日までの1週間で118,696人（23.9）で前週比84%と減少した。鹿児島県(36.2)、石川県(35.8)、長崎県(35.2)からの報告が多い。年齢別では5歳未満が全体の20%、5-9歳が29%、10-14歳が17%、15-19歳が5%、20-59歳が21%、60歳以上が8%であった。